大阪公立大学　富田林市との連携事例

令和7年11月時点

自治体の課題（ニーズ）



富田林市では安心安全のまちづくりに取り組んでいて、未来を担うこどもたちに、防災知識・技術を身につけてもらい、次世代の防災リーダーとして活躍してもらうことを期待している。

そこで、市内在住・在学の小・中学生を対象に、防災リーダー養成講座を開講し、大阪公立大学とともに防災に関連する研究成果を活用した取り組みを進めたい。

小・中学生以外にも、災害時の市民の自助・共助を中心とした防災力向上を目指す取り組み、在留外国人を対象とした防災の取り組みも連携して実施したい。

研究成果（シーズ）の還元



大阪公立大学都市科学・防災研究センターと富田林市とで大学の教育・学術研究機能の向上および富田林市における安全安心のまちづくりの推進を目的に、「地域防災に関する連携協定」を締結した。

本協定に基づく取り組みとして、富田林市内在住・在学の小・中学生を対象とする「ジュニア防災リーダー養成講座」では、大学で開発したVR空間上でまち歩きを体験できるシステムを活用し、富田林市のまち中に潜む危険な場所の確認や災害時に起こりうる被害を解説し、地域の再認識と防災意識の向上に取り組み始めた。

■　この連携に携わった研究者



現代システム科学研究科
生田　英輔　教授

（研究者からのメッセージ）

地域で災害に備えるには、その地域の地形や建物にどのような特徴があるかを知ることが大事です。ハザードマップだけではわからないことも多いですが、実際に現地に行かなくても現地で撮影された画像を基に作られてVR空間の中を歩くだけで、多くのことを学べます。リアルとバーチャルを組み合わせた新たな防災の取り組みによって、若い世代に防災をわが事と捉えてもらい、実践的な備えにつながることを期待しています。

※　研究者の経歴等は(URL：https://researchmap.jp/read0210155)をご参照下さい。

大阪公立大学　富田林市との連携事例

令和6年1月時点

自治体の課題（ニーズ）



富田林市では安心安全のまちづくりに取り組んでいて、未来を担う中学生に、防災知識・技術を身につけてもらい、次世代の防災リーダーとして活躍してもらうことを期待している。
このために、防災人材育成のターゲットとして、次世代を担う中学生を位置づけ、大阪公立大学とともに防災に関連する研究成果を活用した取り組みを進めたい。
中学生以外にも、災害時の市民の自助・共助を中心とした防災力向上を目指す取り組みを連携して実施したい。

研究成果（シーズン）の還元





大阪公立大学都市科学・防災研究センターと富田林市とで大学の教育・学術研究機能の向上および富田林市における安全安心のまちづくりの推進を目的に、「地域防災に関する連携協定」を締結した。
本協定に基づく取り組みとして、富田林市内在住・在学の中学生を対象とする「ジュニア防災リーダー養成講座」で、フィールドワーク「防災まち歩き」を実施し、大学で開発した「防災教育向けARアプリ」を手に、まち中に潜む危険な場所の確認や災害時に起こりうる被害のAR体験を含め、地域の再認識と防災意識の向上に取り組み始めた。

■　この連携に携わった研究者



理学研究科
三田村　宗樹　教授

（研究者からのメッセージ）
地域の災害リスクは、地域ごとに多様で、単に地域行政が用意したハザードマップだけを見ていても具体的に何が起こるのかの理解を深められません。わが街が各種の災害でどのように変貌するのかを、まち歩きを通じて再認識することが大切です。それを補助するために開発したARアプリも活用し、若い世代に防災意識を高めてもらい、行動に移してもらうことが重要だと考えています。
※　研究者の経歴等は(URL:https://researchmap.jp/00183632)をご参照下さい。

大阪公立大学　富田林市との連携事例

■　自治体（富田林市）からの視点　　令和6年4月時点


近畿総通局

【デジタル技術を活用した地域課題解決に向けた取組について】

・　取組の経緯・きっかけについて教えて下さい。


富田林市

富田林市では市民の防災知識の向上を目標に掲げており、これまで慣例的に行なってきた防災備蓄品の取扱やAED講習等の取組以外で新規の取組を検討していました。
そこで、本市と「地域防災に関する連携協定」を締結している大阪公立大学都市科学・防災研究センター（UReC）の三田村教授に相談をし、同大学で開発した「防災教育向けARアプリ」の活用をご提案いただいたことが本取組を行なったきっかけとなります。

・　現時点での成果・進捗状況を教えて下さい。


富田林市

三田村教授からのご提案を形にするために、令和5年8月23日に、本市内在住・在学の中学生を対象とした「ジュニア防災リーダー養成講座」にて、フィールドワーク「防災まち歩き」を実施し、防災教育向けARアプリを手にしながら富田林市消防庁舎周辺を歩き、町中に潜む危険な場所の確認や災害時に起こりうる被害のAR体験を行いました。
更に、令和5年11月23日には、「令和5年度富田林市防災フェア」を開催し、防災ARアプリ体験ブースを出展していただいた他、地域の防災訓練や子供向けのクリスマスイベントでも防災教育向けARアプリの体験を行ってきたところであり、これらについては今後も実施していただきたいと考えています。
また、令和6年度も、「ジュニア防災リーダー養成講座」にて、防災教育向けARアプリを活用する予定です。

大阪公立大学　富田林市との連携事例

・ **取組の期間・費用を教えて下さい。**



富田林市

令和5年度から開始し、継続して行うことで進めています。
費用については、現在のところ大学が負担しており、本市として特段の費用負担はしていません。
しかし、本取組を継続的なものとするために、令和6年度は実施にかかる費用について、予算を本市で確保しました。貴重な税金を使う以上、費用に見合った効果が求められるところです。

・ **活用した国の支援策はありますか。**



富田林市

現在のところ、特段の国の支援策は活用していません。

大阪公立大学　富田林市との連携事例



近畿総通局

【大学との連携について】

・ **大学と連携した経緯・きっかけについて教えて下さい。**



富田林市

富田林市では過去に大学と連携し、市民の防災知識向上に向けた取組の一環として「ドローンをプログラミングして飛ばしてみよう！」という講座を開催しました。
当時講師として大阪公立大学の吉田准教授をお迎えしたことがきっかけとなり、令和５年８月９日に、本市とURｅCとの間で、「地域防災に関する連携協定」を締結しました。

・ **連携の効果を教えて下さい。**



富田林市

大学と連携して良かったことは、専門的技術的な知見を富田林市の防災施策に取り込むことができ、市民の防災意識の向上のほか、人材育成や安心安全のまちづくり、防災意識の啓発等に向けた取組をより効果的に進めることができたことです。
例えば、防災意識の啓発は、どうしても地道でアナログな手段になりがちですが、ドローンやARといった最新技術を用いることで市民の関心も高まり、結果的に例年よりも多くの方々にイベントに参加いただきました。
また、大学側としても、本市を研究フィールドとして利用できることから、大学・自治体双方にメリットがあると感じています。

大阪公立大学　富田林市との連携事例

・ **連携に際して工夫した点や苦労した点はありますか。**



富田林市

大学と連携する際は、自分たちだけのメリットを考えるのではなく、大学・自治体相互に利益が得られるような連携形態になるよう留意しています。
特に昨年度は、富田林市としては費用負担していなかった分、研究フィールドの提供だけでなく、研究開発や社会実装の進展に役立ちそうな団体等を大学に紹介しました。

・ **大学以外にどのような関係者と連携を行いましたか。**



富田林市

本取組においては、現在のところ大学以外の組織との連携はありません。

大阪公立大学　富田林市との連携事例


近畿総通局

【今後の展望について】

・ **本事例について、今後の展望を教えて下さい。**

専門技術的な知見を防災施策に取り入れるべく、今後も様々な取組に際して大学との連携を進めていく予定です。


富田林市

・ **本事例のほかに、今後予定しているデジタル技術を活用した地域課題解決に向けた取組や、大学と連携をしてみたい取組があれば教えて下さい。**

コロナ禍をきっかけに、富田林市としては様々な施策にデジタル技術を取り込んでおり、例えば、災害時の連絡手段を電話からSMSを活用した一斉同報サービスに更改したほか、クラウド型の被災者支援システム及びプッシュ通知が可能な防災アプリを導入するなど合理的な行政運用を目指しています。

今後は、避難所のデジタルチェックインのほか、雨雲の発達具合や河川の水位計等から得られた様々な情報を基にして、災害の危険度を判断できるような一元管理AIツールの導入を検討していきたいです。


富田林市

連絡先
富田林市　市長公室　危機管理室
TEL：0721-25-1000（代表）
MAIL：kikikanri@city.tondabayashi.lg.jp

【参考情報】 富田林市人口：10.6万人（令和6年4月現在）
関連URL： https://www.city.tondabayashi.lg.jp/soshiki/7/95221.html